



# 平成 23 年 12 月期 第 3 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 23 年 10 月 28 日

上場会社名 エリアリンク株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8914 URL <http://www.arealink.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 尚道  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 磯崎 利博 (TEL)03-5577-9222  
 四半期報告書提出予定日 平成 23 年 11 月 11 日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有・無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成 23 年 12 月期第 3 四半期の業績 (平成 23 年 1 月 1 日 ~ 平成 23 年 9 月 30 日)

### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23 年 12 月期第 3 四半期	7,919	-	743	-	667	-	739	-
22 年 12 月期第 3 四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23 年 12 月期第 3 四半期	602.42	-
22 年 12 月期第 3 四半期	-	-

(注)平成 22 年 12 月期第 3 四半期につきましては、連結財務諸表を作成しているため、記載しておりません。  
 また、対前年同四半期増減率についても記載しておりません。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1 株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23 年 12 月期第 3 四半期	17,121	9,954	58.1	8,108.65
22 年 12 月期	18,701	9,214	49.3	7,506.06

(参考)自己資本 23 年 12 月期第 3 四半期 9,954 百万円 22 年 12 月期 9,214 百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22 年 12 月期	-	0.00	-	0.00	0.00
23 年 12 月期	-	0.00	-	-	-
23 年 12 月期(予想)	-	-	-	-	-

(注)当四半期における配当予想の修正有無 : 有・無

(注 2)平成 23 年 12 月期における配当金の額は未定とさせていただきます。詳細につきましては、3 ページ、(3)業績予想に関する定性的情報をご参照ください。

## 3. 平成 23 年 12 月期の業績予想 (平成 23 年 1 月 1 日 ~ 平成 23 年 12 月 31 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通 期	10,242	8.1	1,127	12.0	950	22.6	756	12.4	616.59

(注)当四半期における業績予想の修正有無 : 有・無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有・無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 : 有・無

以外の変更 : 有・無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

23年12月期3Q	1,257,630株	22年12月期	1,257,630株
23年12月期3Q	30,000株	22年12月期	30,000株
23年12月期3Q	1,227,630株	22年12月期3Q	1,227,630株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当社は、平成22年9月9日付及び平成22年12月24日付で連結子会社であったハロー・テクノ株式会社の当社保有株式の一部を譲渡したことに伴い、連結子会社が存在しなくなったことから、平成23年12月期第1四半期決算短信より非連結となっております。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	4
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	4
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	4
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	4
3. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
【第3四半期累計期間】 .....	7
【第3四半期会計期間】 .....	8
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) セグメント情報 .....	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間(自平成23年1月1日至平成23年9月30日)におけるわが国経済は、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」により、電力供給等の社会インフラへの影響だけでなく、日本経済全体に対して多大な影響を与え、更に欧州経済の債務問題、米国経済の減速、円高の長期化など、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。一方、当社が属する不動産業界は、低金利や政府による経済刺激策に下支えされ、一部持ち直しの動きを見せましたが、依然として停滞が続いております。

このような状況のもと、当社は「ハローストレージ」を軸にした不動産運用サービス事業による安定的なストック型ビジネスを展開いたしております。

不動産運用サービス事業は、事業の中核となる「ハローストレージ」の収益安定化を図るために、土地価格の下落、オフィスビルの空室率の上昇等を背景として積極的な出店を行いました。また、顧客満足を追求するために運営現場の設備改善、トータル的なお客様サポート体制の強化、地域密着型の営業活動を行いました。さらに、収益力向上のために支払賃料の減額交渉、リース資産の買取を行いました。この結果、売上高は7,145百万円となりました。

一方、不動産再生・流動化サービス事業は、保有する販売用不動産の売却を行い、在庫を減少させると共に、長期借入金の返済を進め財務体質の強化を目指すことにより、ストック型ビジネスへの移行を促進しました。この結果、売上高は773百万円となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は7,919百万円、営業利益は743百万円、経常利益は667百万円、四半期純利益は739百万円となりました。

なお、第1四半期会計期間から初めて四半期財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における総資産は前事業年度末に比べ1,580百万円減少し、17,121百万円となりました。増減の主な内訳は、工具器具備品等の増加があったものの保有不動産の売却等により有形固定資産が662百万円減少、商品が478百万円減少、販売用不動産が699百万円減少したことによるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における負債合計は前事業年度末に比べ2,319百万円減少し、7,166百万円となりました。増減の主な内訳は、所有不動産の売却による1年内返済予定の長期借入金の減少等により流動負債が307百万円減少したことと、長期借入金が1,863百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は前事業年度末に比べ739百万円増加し、9,954百万円となりました。増減の主な内訳は、利益剰余金が739百万円増加したことによるものであります。これらの結果、自己資本比率は58.1%となりました。

#### キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物の残高は1,228百万円となりました。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、1,803百万円の収入となりました。主な内訳は、固定資産の売却益150百万円、未払金の減少等によりその他196百万円等の減少要因に対し、税引前四半期純利益634百万円、減価償却費計上額736百万円、たな卸資産の減少額747百万円等の増加要因によるものであります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、544百万円の収入となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出額721百万円等の減少要因に対し、有形固定資産の売却による収入額1,226百万円、貸付金の回収額65百万円の増加要因によるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、2,152百万円の支出となりました。主な内訳は、長期借入れによる収入額220百万円の増加要因に対し、長期借入金の返済による支出額2,368百万円等の減少要因などであります。

なお、第1四半期会計期間から初めて四半期財務諸表を作成しておりますので、前年同四半期累計期間との比較分析は行っておりません。

#### (3) 業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、当社の各事業は順調に推移しており、平成23年2月14日の「平成22年12月期 決算短信」にて発表の業績予想数値に変更ありません。

また、平成23年12月期の期末配当につきましては、今後の経済動向、資金調達環境の不透明感を勘案して未定とさせていただきます。

## 2. その他の情報

### (1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

#### 一般債権の貸倒見積高の算定方法

貸倒実績率が前事業年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合に、前事業年度末に算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

#### たな卸資産の評価方法

たな卸資産の簿価の切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

### (2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

「持分法に関する会計基準」及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期会計期間より、「持分法に関する会計基準」（企業会計基準第16号 平成20年3月10日公表分）及び「持分法適用関連会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第24号 平成20年3月10日）を適用しております。

当該変更による損益に与える影響はありません。

「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期累計期間の営業利益及び経常利益は、それぞれ11,139千円減少し、税引前四半期純利益は76,095千円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

### (3) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

## 3. 四半期財務諸表

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,228,719	1,033,980
売掛金	374,783	301,973
完成工事未収入金	11,163	89,746
商品	549,497	1,027,770
販売用不動産	1,082,562	1,782,530
未成工事支出金	336	-
貯蔵品	5,199	3,804
その他	783,296	729,061
貸倒引当金	46,283	39,762
流動資産合計	3,989,275	4,929,104
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	8,767,823	9,651,255
減価償却累計額	1,532,059	1,267,788
減損損失累計額	135,882	172,166
建物(純額)	7,099,881	8,211,301
土地	2,641,095	2,870,187
その他	2,990,405	2,140,527
減価償却累計額	869,267	695,330
減損損失累計額	376	2,249
その他(純額)	2,120,760	1,442,947
有形固定資産合計	11,861,737	12,524,436
<b>無形固定資産</b>		
その他	171,355	228,042
無形固定資産合計	171,355	228,042
<b>投資その他の資産</b>		
その他	2,391,266	2,319,295
貸倒引当金	1,292,600	1,299,809
投資その他の資産合計	1,098,665	1,019,486
固定資産合計	13,131,758	13,771,965
資産合計	17,121,034	18,701,070

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年9月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	238,130	241,028
1年内返済予定の長期借入金	806,263	1,091,446
未払法人税等	15,506	23,877
その他	769,159	780,379
流動負債合計	1,829,060	2,136,732
固定負債		
長期借入金	4,061,624	5,924,979
資産除去債務	171,657	-
その他	1,104,262	1,424,687
固定負債合計	5,337,544	7,349,666
負債合計	7,166,605	9,486,398
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,568,222	5,568,222
資本剰余金		
資本準備金	5,612,719	5,612,719
資本剰余金合計	5,612,719	5,612,719
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	970,377	1,709,931
利益剰余金合計	970,377	1,709,931
自己株式	256,584	256,584
株主資本合計	9,953,979	9,214,425
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	449	245
評価・換算差額等合計	449	245
純資産合計	9,954,429	9,214,671
負債純資産合計	17,121,034	18,701,070



## (2) 四半期損益計算書

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
売上高	7,919,672
売上原価	6,226,458
売上総利益	1,693,214
販売費及び一般管理費	949,985
営業利益	743,229
営業外収益	
受取利息	3,607
還付加算金	862
受取遅延損害金	4,085
業務受託料	3,467
違約金収入	29,218
その他	12,204
営業外収益合計	53,446
営業外費用	
支払利息	110,864
その他	18,313
営業外費用合計	129,178
経常利益	667,497
特別利益	
固定資産売却益	150,027
貸倒引当金戻入額	8,082
その他	1,906
特別利益合計	160,016
特別損失	
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64,955
災害による損失	49,709
その他	78,754
特別損失合計	193,419
税引前四半期純利益	634,094
法人税、住民税及び事業税	6,539
法人税等調整額	111,999
法人税等合計	105,460
四半期純利益	739,554

【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	2,312,797
売上原価	1,765,316
売上総利益	547,480
販売費及び一般管理費	309,722
営業利益	237,758
営業外収益	
受取利息	1,045
受取遅延損害金	1,715
違約金収入	28,678
その他	7,097
営業外収益合計	38,536
営業外費用	
支払利息	31,918
その他	5,599
営業外費用合計	37,518
経常利益	238,776
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,820
特別利益合計	1,820
特別損失	
固定資産除却損	2,814
災害による損失	1,401
訴訟関連損失	2,325
特別損失合計	6,541
税引前四半期純利益	234,055
法人税、住民税及び事業税	1,956
法人税等調整額	21,897
法人税等合計	23,853
四半期純利益	210,201

## (3)四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	634,094
減価償却費	736,892
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	64,955
貸倒引当金の増減額(は減少)	687
受取利息及び受取配当金	3,697
支払利息	110,864
固定資産売却損益(は益)	150,027
売上債権の増減額(は増加)	5,771
たな卸資産の増減額(は増加)	747,896
仕入債務の増減額(は減少)	2,897
その他	196,995
小計	1,946,167
利息及び配当金の受取額	1,334
利息の支払額	122,335
法人税等の支払額	21,842
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,803,323</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	721,591
有形固定資産の売却による収入	1,226,446
有形固定資産の除却による支出	6,697
無形固定資産の取得による支出	19,321
貸付金の回収による収入	65,399
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>544,235</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
長期借入れによる収入	220,000
長期借入金の返済による支出	2,368,538
配当金の支払額	390
リース債務の返済による支出	3,924
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,152,853</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	34
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	194,739
現金及び現金同等物の期首残高	1,033,980
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,228,719

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものとあります。

当社は、「不動産運用サービス事業」及び「不動産再生・流動化サービス事業」の事業を営んでおります。「不動産運用サービス事業」は、当社が土地・空室等を借上げ、又は土地、建物等を取得・保有し運用する事業等であります。また、土地、建物所有者のニーズに合わせて、コンテナ、トランクルーム等の設置、及び建築を受注し提供する事業であります。「不動産再生・流動化サービス事業」は、当社が保有している中古の不動産物件について改修等を行うことで付加価値を加え、運用効率を上げた後に投資家等に販売する事業等であります。

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	合計
	不動産運用サービス事業	不動産再生・流動化サービス事業	計		
売上高					
外部顧客に対する売上高	7,145,873	773,799	7,919,672		7,919,672
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	7,145,873	773,799	7,919,672		7,919,672
セグメント利益	1,108,379	44,613	1,152,992	409,762	743,229

- (注) 1 セグメント利益の調整額 409,762千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。  
2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

会計処理の原則・手続、表示方法の変更

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、不動産運用サービス事業の当第3四半期累計期間のセグメント利益は11,139千円減少しております。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。